

# 2回目穂肥で後期栄養を確保

## 1 生育概況(コシヒカリ 7/20現在)

現在の生育(指標値比)

平地	草丈:長い (112%)	茎数:やや多い (105%)	葉数:並 (±0)	葉色:やや濃い (SPAD値+1.1)
中山間地	草丈:長い (111%)	茎数:やや多い (108%)	葉数:並 (-0.3)	葉色:並 (SPAD値+0.9)

- 草丈が急激に伸長し、平地地、中山間地ともに長くなっています。
- 葉色は、ほ場間差が大きく、田植の早いほ場などでは急激に低下しているほ場もみられます。生育の遅れたほ場では濃い傾向です。今後の葉色の推移に注意が必要です。

## 2 調査結果 (普及センター、JA調査ほ)

### (1)コシヒカリ

場所	標高	田植	草丈 (cm)			茎数 (本/m <sup>2</sup> )			葉数 (葉)			葉色 (SPAD)			備考		
			本年	前年比	指標比	本年	前年比	指標比	本年	前年差	指標差	本年	前年差	指標差			
平地地	今熊(浦川原)	16	5/12	85	108%	113%	534	株当 29.7	132%	130%	12.8	+0.2	+0.3	32.3	+0.2	-1.2	幼穂形成期 7/10
	飯室(浦川原)	13	5/8	83	90%	111%	397	株当 24.8	90%	97%	12.8	-0.1	+0.3	32.8	-7.1	-0.7	幼穂形成期 7/8
	宮口(牧)	71	5/19	83	104%	111%	361	株当 19.4	77%	88%	11.8	-0.5	-0.7	38.8	-0.6	5.3	幼穂形成期 7/15
	平均			84	100%	112%	431	株当 24.6	99%	105%	12.5	-0.1	±0	34.6	-2.5	+1.1	
中山間地	安塚(安塚)	80	5/8	87	101%	116%	486	株当 28.6	122%	119%	12.8	-0.2	+0.3	28.1	-6.1	-5.4	幼穂形成期 7/7
	和田(安塚)	133	5/15	80	100%	107%	412	株当 19.8	113%	100%	13.0	+0.4	+0.5	31.2	-4.0	-2.3	幼穂形成期 7/9
	大島(大島)	152	5/15	85	93%	113%	398	株当 20.2	78%	97%	11.1	-1.6	-1.4	37.2	+5.8	+3.7	幼穂形成期 7/11
	菖蒲(大島)	337	5/20	81	103%	108%	495	株当 26.2	99%	121%	12.2	+0.2	-0.3	33.8	-2.0	+0.3	幼穂形成期 7/13
	高尾(牧)	352	5/23	82	96%	109%	420	株当 21.3	82%	102%	11.7	+0.3	-0.8	41.7	-1.8	+8.2	全量基肥 幼形期7/20
平均			83	99%	111%	442	株当 23.2	97%	108%	12.2	-0.1	-0.3	34.4	-1.6	+0.9		

### (2)つきあかり

場所	標高	田植	草丈 (cm)			茎数 (本/m <sup>2</sup> )			葉数 (葉)			葉色 (SPAD)			備考		
			本年	前年比	指標比	本年	前年比	指標比	本年	前年差	指標差	本年	前年差	指標差			
平地地	長走(浦川原)	19	5/7	91	91%	114%	391	株当 21.5	126%	115%	-	-	-	40.4	+0.7	+0.4	出穂見込み 7/21
	宮口(牧)	57	5/17	100	110%	125%	322	株当 17.6	109%	95%	12.4	-0.8	-0.6	41.9	+0.3	+1.9	
	平均			96	101%	120%	357	株当 19.6	117%	105%	12.4	-0.6	-0.6	41.2	+0.5	+1.2	
中山間地	田麦(大島)	310	5/15	89	-	131%	478	株当 26.1	-	145%	12.4	-	+0.9	45.1	-	+5.1	全量基肥
	高尾(牧)	285	5/21	94	103%	138%	350	株当 17.3	86%	106%	12.0	-0.9	+0.5	44.4	-0.4	+4.4	全量基肥
	平均			92	101%	135%	414	株当 21.7	102%	125%	12.2	-0.7	+0.7	44.8	±0	+4.8	

## 3 今後の管理のポイント

- 「コシヒカリ」の出穂は平年より2日程度早く、前年より3日程度早い見込みです。
- これから1回目穂肥を施用する場合は生育診断に基づき、時期及び量を判断しましょう。
- 2回目の穂肥(出穂10日前)は、後期栄養を確保するため、窒素成分で1~1.5kg/10aを基本に確実に施用してください。出穂12日前頃の葉色が濃い(SPAD値35以上)の場合は2回目の穂肥施用量を窒素成分で0.7~1kg/10aとしましょう。
- 2回目の穂肥施用時期の考え方
  - ①1回目穂肥を出穂期の18日前に施用した場合：出穂期の10日前に施用
  - ②1回目穂肥施用を出穂期18日前より遅らせた場合：1回目穂肥の7日後に施用
  - ③1回目穂肥を施用しなかった場合：出穂期の10日前に施用(出穂期10日前までに急激に葉色が低下する場合は直ちに施用)
- 出穂の12日前頃から出穂・開花期頃は最も水が必要な時期です。ほ場の水分状態に応じたこまめな水管理で稲体の活力低下や下葉の枯れ上がりを防いでください。(高温下での長期湛水は根腐れに注意してください。)
- 病虫害発生予察調査でカメムシ類が多く確認されています。イネ科雑草が結実しない3週間程度の間隔で農道・畦畔の草刈りを行い、本田防除も徹底しましょう。